

ほすびたる

No.713

平成 29 年 6 月 20 日
福岡県病院協会

C O N T E N T S

新人物	ごあいさつ	産業医科大学 病院長 尾辻 豊 ①
	中核的総合病院として 地域医療へ貢献	産業医科大学若松病院 病院長 酒井 昭典 ②
	ご挨拶	国立病院機構福岡東医療センター 院長 江崎 卓弘 ③
	ご挨拶	国立病院機構大牟田病院 院長 川崎 雅之 ④
	済生会福岡総合病院 院長 に就任して	済生会福岡総合病院 院長 松浦 弘 ⑤
	新任のご挨拶	医療法人福西会福西会病院 院長 山下 裕一 ⑥
病院管理	地域医療構想の中で大学病院の 医療連携センターが果たす役割	久留米大学病院 医療連携センター 副看護部長 古賀真由美 ⑧
	医療機関と民間企業の違いと 事務職のあり方	宗像医師会病院 総務課 課長 原口 幸聖 ⑩
看護の窓	管理師長に就任して	社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院 診療統括部門 3（救急病棟部門）管理師長 木下 和代 ⑬
	就任のご挨拶	久留米大学病院 看護部長 上野 知昭 ⑮
	就任のあいさつ	社会医療法人製鉄記念八幡病院 看護部長 倉地美智子 ⑰
Letter	考えるということ	学校法人原学園原看護専門学校 学校長 朔 元則 ⑱ 国立病院機構九州医療センター 名誉院長
Essay	橋立に似た地形	元医療法人誠十字病院 平衡神経科 医師 安田 宏一 ⑳
	人体旅行記「太 腿」	国立病院機構九州医療センター 医療情報管理センター 部長 吉住 秀之 ㉑
	50年前の女子学生	元国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 診療情報管理士 戸次 弼子 ㉒

■福岡県私設病院協会	平成 29 年 5 月福岡県私設病院協会の動き	㉓
■福岡県病院協会だより		㉔
■編集後記	岡嶋泰一郎	㉗

Teleradiology Service. and ASP Service.

確かな診断を、より確かなものに。
ネットワークを利用した読影サービスで、
あなたをバックアップします。



Teleradiology

～遠隔画像診断サービス～
医療に地域格差があってはならない
そう私たちは考えます。

ASP Service

～遠隔画像診断ASPサービス～
放射線科の先生方向けに、遠隔
読影システムから課金に至るまで
統合的にサービスをご提供します。

株式会社ネット・メディカルセンター

〒815-0081 福岡市南区那の川1丁目24-1
九電工福岡支店ビル6階
フリーダイヤル:0120-270614 FAX:092-533-8867
ホームページアドレス <http://www.nmed-center.co.jp/>

寝具・病衣・白衣・タオル及びカーテンのリース洗濯 患者私物衣類の洗濯

☆寝具・カーテン・看護衣・診察台カバー・タオル・紙おむつ・レセプト用紙
介護用品等の販売、ベッドマットリース・販売、給食材料・給食依託業者・
重油等の斡旋及び各種保険の取扱いもしております。

福岡県私設病院協会グループ

福岡医療関連協業組合

Clean & Comfortable



理事長 江 頭 啓 介

専務理事	佐田 正之	理 事	津留 英智
理 事	原 寛	監 事	杉 健三
理 事	陣内 重三	監 事	松村 順
理 事	牟田 和男	事務局長	関 賢司

〒811-2502 糟屋郡久山町大字山田 1217-17
TEL 092-976-0500 / FAX 092-976-2247



ごあいさつ

皆様、平成 29 年 4 月から産業医科大学病院
病院長に就任いたしました尾辻 豊と申しま
す。産業医科大学は 1978 年（昭和 53 年）4 月
に開設され、1979 年 7 月から産業医科大学病
院での診療が開始されました。現在は北九州地
区唯一の大学病院そして特定機能病院として幅
広く質の高い医療・教育を提供しています。
678 床を有し、外来には 1 日 1312 名の患者さ
んが来られ、入院患者さんは平均 578 名・年間
入院総数 15,696 名で、年間手術数は 6,851 件で
す。立地する北九州市八幡西区は、30 分圏域
に 45 万、二次医療圏に 110 万の人口を有し、
多くの人達の健康増進に貢献する使命を持っ
ています。1979 年の診療開始以来、多くの職員・
支援者の努力で徐々に発展し、近年では北九州
地区で最も多くの悪性腫瘍症例の診療を行っ
ています。

課題も多く、昨今の診療は一つの施設で完結
することはありません。地域の病院・クリニッ
ク・諸施設の方々と連携をとりながら患者さん
一人一人に包括的な診療を提供する必要があります。
病診連携・病々連携等に取り組み、地域
のみなさまに貢献できるように努力していま
す。診療の質改善が最優先課題ですが、これの
中心となるのは優れた職員の採用・育成であ
り、医療安全活動です。安全活動は診療の根幹
であるという文化を根付かせるべく多くの職員
が地道な努力を続けています。また、医療の基

本は人と人の相互信頼行動です。患者さんは身
体的回復と精神的癒し・勇気付けを求めてお
り、単なる技術や知識・薬・手術等だけを病院
に求めている訳ではありません。患者さんに優
しいより良い医療を提供できるような病院作
り・職員育成も重要です。高齢化・人口減少に
伴い益々医療環境が悪化すると予想され、当院
にも課題が次々出てくると思われます。職員が
協力して課題に挑戦し続けるしかありません。

このような中で今年は南別館（放射線治療
等）新築に着工します。南別館が完成しました
ら本館の耐震工事です。この耐震工事は、その
次に予定されている病院新棟建築を見込んで
「将来の病院建物群全体の中で本館がどのよ
うにあるべきか?」、その構想を実現するための
改築でもあります。この一連の工事は正に未来
の産業医科大学病院の創成です。英知を結集し
なければなりません。

このように課題は山積しています。私のような
僧帽弁の心エコー画像を見ることが何より楽
しみだった人間が病院全体のマネジメントを
ちゃんとできるのか? 不安もありますがベスト
を尽くすのみです。当院の理念「患者第一の医
療」「安全かつ質の高い医療」「人間愛に徹した
医療人の育成」を根幹として、地域に欠かせな
い病院、職員や卒業生の誇りとなる病院となる
ことにチャレンジします。皆様どうぞよろしく
お願い申し上げます。

産業医科大学若松病院
病院長

酒井 昭典



中核的総合病院として 地域医療へ貢献

2017年4月1日付けで産業医科大学若松病院の病院長に就任いたしました酒井昭典と申します。どうぞよろしくお願いいたします。現在、産業医科大学整形外科学教授と兼務していますので、若松から折尾まで国道199号線を頻回に往復する毎日です。

産業医科大学若松病院は2011年(平成23年)に開院いたしました。今年で7年目になります。病院長は、初代が佐多竹良先生(当時、麻酔科学教授)、二代目が鈴木秀明先生(現、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授)であり、私は三代目になります。当院の前身は1891年(明治24年)に開設された遠賀郡立若松分院、その後の北九州市立若松病院です。若松病院は、今日に至るまで120年以上の長きに渡り北九州市若松区内唯一の総合病院として、地域の中核的病院の機能を果たしてきました。

産業医科大学若松病院のめざすところは、安心・安全の医療を提供すること、科学的根拠に基づいた質の高い医療を提供すること、地域医療に貢献することと考えています。産業医科大学病院との一体運営を図りながら若松病院を発展させるべく、メディカルスタッフ・事務職員が心をひとつにして日々頑張っています。

若松区は北九州市内の中でも高齢化の進んだ地域です。また、病院は工場が建ち並ぶ地域に隣接しています。地域の高齢者と勤労者はもとより幅広い地域の方々に若松病院を利用していただきたいと思っています。

産業医科大学若松病院では、内科は、リウマ

チ・糖尿病内科、循環器内科・腎臓内科、消化器内科、呼吸器内科に分かれており、高い専門性を発揮しながらも幅広い疾患に対応しています。外科は、消化器・一般外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科を中心に多くの手術を行い、良好な治療成績を得ています。外科では、癌だけでなく、虫垂炎や胆嚢炎、ソケイヘルニアも腹腔鏡下で行っています。整形外科は、スポーツ整形外科を専門とし、関節鏡下に最小侵襲で手術を行うことにより早期のスポーツ復帰・社会復帰をめざしています。特に、股関節鏡下手術は世界をリードしています。産婦人科は、骨盤臓器脱へのメッシュ手術や腹腔鏡下手術を専門的に行っています。さらに、リハビリテーション科、緩和ケア・血液腫瘍科、麻酔科、放射線科が高度な医療を提供しています。

また、神経内科・心療内科、小児科、皮膚科、脳神経外科、呼吸器・胸部外科、眼科については、曜日を決めて、外来診療を行っています。化学療法室、無菌室、心臓リハビリテーション室、透析室等を備え、診療機能の充実を図ってきました。敷地内に居宅介護支援事業所と訪問看護ステーションを併設しており、地域の医療機関と密に連携しながら、退院後にご自宅で療養生活が送れるように支援しています。平成29年4月から北九州市の病院群輪番制第二次救急医療に参加しています。

患者の皆様から求められる医療をきめ細やかに提供できるよう努めてまいります。時代とともに変化する疾病構造や診療実績・保険制度改

革を見据えながら病院経営の改善に努めてまいります。真摯な姿勢でより優れた医療を常に求め続けます。近隣の医療機関等とともにより良

い地域医療ネットワークの構築に尽力します。今後とも産業医科大学若松病院をどうかよろしくお願い申し上げます。



ご挨拶

上野道雄前院長の後を受け、本年4月1日から独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター院長に就任しました。

私は昭和56年鳥取大学医学部を卒業し九州大学第二外科に入局後は肝胆膵領域を中心とした外科医として、これまでいくつかの関連病院に勤務しました。

広島赤十字・原爆病院では、諸先輩のおおらかな指導を受けた外科研修医時代から専門領域の責任者として勤務するまでの計3回、通算9年間を過ごしました。3度目の赴任前には吐き気を催すほど緊張しながら関門海峡を渡った記憶があります。冬には早朝暗いうちから出勤し終日手術室に入りっぱなし、夜遅くに帰宅することもしばしばありました。他院では少ない肝臓の手術を立て並びにこなし、まさに手術三昧の日々でした。経験が乏しい食道手術は他院の専門医にコツを教わり呼吸器外科医と一緒にを行い、後輩の若手血管外科医の助手として末梢血管の血行再建術をやっては再手術を繰り返したことはいい思い出です。

その間、麻生飯塚病院に3年間勤めました。当時は小児外科を含むバリバリの外科医が総勢14人、年間手術総数は1000件を優に越える大病院です。それまでに得た知識を度外視するほどの迫力ある臨床の魅力的な部分に触れ、経験が少ない私には本当に心強く、いろんなことを皆に教わりました。飯塚病院の機動力を痛感した1例です。内科的にコントロールできない消化管出血患者に外科治療を決定し手術室の麻酔医へ連絡すると、わずか10分後には患者の腹腔は開いていました。このときはさすがにパワフルな、噂に違わぬ救急医療の最前線に在る病院と再認識しました。

福岡東医療センターには平成18年に副院長として赴任しました。当時の病院はそれまで勤めてきた病院とは全く異なりました。職務は実臨床とは程遠い医療安全や委員会活動、地域医療など初めて経験するものでした。最初の2～3年は記憶に残らないほどいろいろなことが矢のような早さで過ぎ、失敗の連続で前院長や多くの職員に助けられ支えられて何とかやってき

ました。その中で知ったことは『医者以上に“実態に即した考える業務”を実践する多職種の存在』です。

上野前院長は『看護で医療を変える』というキャッチフレーズを掲げていましたが、看護に限らず頼れる職員は少なくありません。しかし、医者に頑張ってもらわないと病院がうまく機能しないことも事実です。

昨年、外来管理診療棟が完成し療養所時代からの診療関連施設は全て建て替わりました。この数年間に救命救急センターや感染症センター

(1種感染症指定施設)の新設に加えて外科系診療科の充実もあり、地域の急性期医療を担う病院として新たなステージに踏み出しました。

このたび病院長就任にあたり『当たり前のことを実践し、地域に信頼される病院』を目標に掲げ、救急医療とがん診療の強化、同時に地域医療ネットワークの推進を目指していきます。地域の人たちがその人らしく暮らせるよう、医師会、地元行政と協力して、安全安心な医療を提供することで地域貢献に努めたいと考えていますので、皆様のご指導、ご支援の程よろしくお願いいたします。



ご挨拶



2017年4月より国立病院機構大牟田病院の院長に就任しました川崎と申します。よろしくお願いいたします。私は6年前に呼吸器科部長として初めて当院に came。以後、統括診療部長、副院長を経て今回院長となりました。簡単に大牟田病院の紹介をさせていただきます。国立療養所大牟田病院と筑後病院が2004年12月統合し独立行政法人国立病院機構大牟田病院ができました。それ以来、結核を含む呼吸器疾患、神経・筋疾患の専門的医療、重症心身障害児・者の専門的療育を柱に医療を行っております。2011年には県の認知症疾患医療センター

に指定され、認知症の診療・教育・研修・広報なども行っています。いわゆるセーフティーネットと呼ばれる領域の神経難病、筋ジストロフィー、重症心身障害児・者に対する医療と、呼吸器疾患に対する医療、また、放射線科読影医が2名いてCT、MRI、RIの検査(医療機器共同利用)直後すぐの読影が可能などかなり特化した病院です。2年前からは膠原病内科を開設し、週2回の外来を行っております。大牟田には市立大牟田病院、大牟田天領病院、済生会大牟田病院など、”大牟田”が病院名に入っている大手の病院が多いのですが、当院は通称国

立大牟田病院と呼ばれています。市街地より7 km 離れた場所にありますが、西鉄バス、西鉄天神大牟田線、JR 在来線のバス停・駅が近くにあり、また九州新幹線新大牟田駅も2 km の距離にあり、何とか生命線は保っています。

後半は自己紹介をさせていただきます。私は昭和36年(1961年)福岡県豊前市で生まれました。かなりの田舎で小学校は全校で百人足らず、今は統廃合になっています。県立京都(みやこ)高校から広島大学(ボート部所属)、その後九州大学の呼吸器科に入局しました。九州大学とあちこちの病院(九州厚生年金病院、九州がんセンター、南福岡病院、北九州市立医療センター、福岡東医療センター)を行き来しながら、2011年4月に国立大牟田病院に着任しました。当時は東日本大震災直後で日本中がかなり暗くなっており、当時ひっそりと開通した九州新幹線で2年間福岡市より通いましたが、

今は、病院官舎を借りて福岡市・大牟田半々の生活をしています。年老いた両親が、豊前市で何とか在宅生活をしているのですが、頻繁に転倒し、また頻繁に病気になり、かなりの頻度で大牟田市・福岡市・豊前市を往復しています。高速道路は開通しましたが、大牟田・豊前は非常に遠く困っています。両親の転居も考えないことはないのですが、親は実家の転倒の原因のバリアフリー化に十分なやる気を見せていません。現代の介護・医療の問題をひしひしと感じております。

人口減少、少子高齢化、地域医療構想、地域包括ケアなど世の中、医療界が激変していく雰囲気は十分に感じます。いやな時代に院長になってしまったと感ずることもあります、なったからには一生懸命に務めさせていただきますので、ご支援のほどよろしくお願いします。



済生会福岡総合病院 院長に就任して



平成29年4月1日に済生会福岡総合病院の院長職を拝命いたしました。私は平成6年に外科医として当院に着任し、以後20数年をこの病院とともに歩いてまいりました。着任当時の当院はスタッフ・設備あらゆる面で整備されておらず、正直「大丈夫かいな。この病院は」と

思っておりました。それが、岡留院長(現名誉院長)のリーダーシップの下、驚くほどのスピードで変革がなされ、手前味噌ではありますが素晴らしい病院に生まれ変わりました。

ご存じない方も多いと思いますが、当院は大正8年に福岡市中央区天神の現在地に診療所と

して開設された非常に歴史のある病院です。開設当初より、諸先輩方は「恵まれない人々のために施薬救療による済生の道を広める」という済生会創立の精神の下、離島診療、災害時診療、検診事業など、地域に密着した保健・医療・福祉の増進および向上に必要な諸事業を行ってまいりました。そして近年は「救急の済生会」として広く認知され、再来年には開院 100 周年を迎えます。このような節目の時期に岡留院長の後を引き継ぎ院長職に就任したことは重責を感じると同時に誇らしく、身の引き締まる思いです。

皆様もご存じの通り、今、医療界は激動の時代です。特に当院が所在する福岡・糸島二次医療圏においては病床数過多とされ、それぞれの病院は機能分化を迫られています。その中で当院の使命は、高度急性期医療を提供することだと考え、医療機能の充実を図っております。具

体的には、心臓疾患、脳疾患を中心とした急性期患者の受け入れと、がん治療に代表される高度専門医療の充実が診療の大きな柱と考えます。その上で「命を済^{すく}う」という済生会の名前に込められた使命を全うしたいと考えます。さらに地域医療構想の中で、地域の病院・開業医の先生方、あるいは在宅におけるケアマネジャーの皆様との連携を深め、刻々と変わる時代の中で、これまで同様に地域社会のニーズに応えてまいります。

済生会の使命・方針に沿った病院としての「あるべき姿」すなわち当院の理念である「地域社会の皆さまや先生方に信頼され、真の満足をしていただける病院づくり」を職員とともに心を一つにして求めていきたいと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。



新任のご挨拶



2017 年 3 月末を持ちまして 23 年間勤めました福岡大学医学部の教授職を辞し、4 月 1 日より福西会病院の院長として勤務いたしております。福岡大学医学部ならびに病院では、手術部教授、消化器外科教授そして病院長を経験し、研究・教育・診療だけでなく経営にまで参画す

る貴重な機会に恵まれました。現在、大学病院とは大きく異なる市中病院の診療を学び実践する新たな業務に取り組んでいます。「ほすびたる」の読者の皆様には今後とも宜しくご指導をお願い申し上げます。

福西会病院のご紹介

福西会病院は、昭和 45 年開設の医療法人福西会 川浪病院から平成 20 年 4 月病院名を福西会病院と変更して 50 年近く、早良地区を中心に福岡西南部の中核病院として、二次救急医療の基幹病院としての役割を果たすと共に開放型病院として地域の先生方と親密な病診関係を築いています。

福西会病院の方針

診療は、『誠実で信頼される医療』の理念の下に 17 の診療部門を持ち質の高い専門性を追究する総合病院を目指しています。高齢化社会に対応できるように従来の診療部門の機能に急性期リハビリを整え、整形外科の治療や手術、腹部疾患の内科的治療や外科手術、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、神経内科・脳外科、泌尿器科などの患者様に対応できる設備を有し対応しています。そして、平成 26 年からは一般病床の他に地域包括ケア病床を設け、更に機能強化型在宅診療科を併設し、急性期診療から在宅診療までの医療を提供しています。

救急医療

当病院における内科的救急疾患として循環器疾患と呼吸器疾患の入院患者数は多く、この診療科の更なる充実が望まれます。消化器疾患の救急に消化器内科と消化器外科による有機的な対応機能強化を目指しています。外科的救急疾

患が対応可能な整形外科・消化器外科・呼吸器外科・泌尿器科・脳外科の各科は、診療科を超えて機能するように再構築を進めています。今後更に、当院が二次救急医療の基幹病院として医療に貢献できるように整備して行きます。

高齢者に優しい診療を目指して

2025 年には団塊の世代の人々が総て 75 歳以上になり、高齢化社会に対応できる診療体制づくりは、当院にとりましても重要な課題です。急性期診療において運動器のみならず癌治療においても急性期リハビリの効果は明らかであり、その強化と継続は重要ですが、在院日数短縮の方向性と相反する課題です。高齢者においてはより重要な課題であるためこれらを乗り越えるべき診療体制の構築が高齢者に優しい診療に結びつくものと考え取り組んでいます。

当病院の医療従事者が目指すもの

福西会病院は、患者様により良質の医療サービスを提供し満足していただけることを目標に職員一同取り組んでいます。医療を提供する病院職員皆が常に優れた専門職となるよう研鑽し、職種の異なる職員と協調して“明るく仕事ができ、職員自身も満足できる”という「患者様第一、職員第一」の職場となることを目指した組織となるように取り組み、そして、当院の理念である『誠実で信頼される医療』を実践できるよう努力していきたいと考えております。

地域医療構想の中で大学病院の医療連携センターが果たす役割

久留米大学病院 医療連携センター 副看護部長 古賀 真由美

〈久留米大学病院概要（H28年度）〉

- ・ 許可病床数：1025 床
（一般病床 972 床・精神病床 53 床）
- ・ 病棟数：24 病棟
- ・ 医師数：599 名
- ・ 看護師数：1093 名
- ・ 平均在院日数：14.3 日
- ・ 一般病床利用率：80.4%
- ・ 在宅復帰率：89%
- ・ 紹介率：95.0%
- ・ 逆紹介率：86.2%
- ・ 麻酔科管理手術件数：6081 件
- ・ 高度救命救急センター搬入患者数：1146 人

久留米大学病院は、福岡県南部でただ一つの大学病院です。特定機能病院、地域がん診療連携拠点病院、新生児を含む福岡県総合周産期母子医療センターとしての使命に加え、高度救命救急センターを持ち、ドクターヘリの運行圏域は佐賀県や大分県にまでまたがり、高度先進医療の拠点として地域医療に貢献しています。

久留米医療圏の概要

当院が位置する久留米医療圏について、厚生労働省 HP の福岡県地域医療構想内には「高機能病院や地域の基幹病院が複数あり、急性期医療の提供能力が非常に高く、朝倉・有明・八女・筑後から多くの患者が集まってくるが、周囲の医療圏間との患者の流入・流出が多い医療圏で

ある。急性期以後は療養病床も回復期病床も充実している。」と概要を述べてあります。実際に当院の入院患者と外来患者の数を地域別に見てみますと、福岡県他医療圏からが 30.6%、他県からが 23%となっています。

地域医療構想における大学病院の役割

急速に進行する少子化と超高齢化、そして国庫財政赤字への対応策として、一病院完結型の医療の提供から、地域の病床毎の機能を明文化して分化し、地域全体として医療を完結する地域包括ケアシステムへと変革が進められています。「時々入院、ほぼ在宅」と言われる地域包括ケアシステムの中で、特定機能病院としての役割は「地域医療の枠を超えるような高度な医療が必要な時に紹介を受け、専門的な医療を提供し、病状が安定したら地域医療へ逆紹介する」ことと、「高度医療技術の開発・評価を行うとともに、高度医療に関する研修を行うことで、医療技術の進歩・人材の育成等を通して広く国民の健康に貢献する」こととされています。

このような地域医療や住民のニーズに応えるために、医療連携センターのあるべき姿は「高度医療を必要とする患者さんが、スムーズに入院し、安心して質の高い医療を受けた後、地域や在宅へ療養生活をつないでいくことができる」としました。そのためには地域の医療施設との連携を深めることが最重要課題となります。

今年度の当院の診療目標の一番目にも「地域医療施設との連携強化」が掲げられたこともあり、4月から副センター長が従来の看護部長に加え、新たに2名の医師（専任1名、兼任1名）が増員となりました。センター長（医師）と3名の副センター長体制となり医療連携センター機能強化に動き始めています。

医療連携センターの主な役割と活動内容

〈医療連携センタースタッフ〉

□ 連携事務担当

（事務室長1名、事務5名、看護師2名）

□ ベッドコントロール担当

（副看護部長1名、看護師5名）

□ 退院支援・医療福祉相談担当

看護師 4 名

退院支援加算 3 要件専従看護師1名

認知症ケア加算 1 要件専任看護師1名

含むMSW7名

*がん相談支援センター

（専従看護師1名、専任看護師1名）

*認知症医療センター（PSW1名）

○ 地域医療施設との連携強化

年に一回、地域の医師会の先生方と懇談会を企画し、「地域が当院をどう評価しているか、また何を求めているか」を知る機会を設けています。実際に当院を利用する先生方にご意見を伺い、地域のニーズや当院の強みや弱みを分析して、改善を図っていくことが連携強化のための重要課題だと考えています。また今年度から専任医師と看護師（退院支援専従看護師もしくは副看護部長）、事務が一緒に、医療施設訪問を開始しました。直接お話することで、お互いの病院の状況がよく分かり、Face to face の重要性を実感しています。また当院の強みとして「近辺の病院に当院出身の看護部長が多いこ

と」があります。「病診連携」、「病病連携」の充実はもちろん、今後は「看看連携」も構築していきたいと思っています。

○ 入退院患者支援センター（仮）の本稼働推進

「患者状態の向上」「職員生産性の向上」をコンセプトに、現在 3 診療科の試行から拡大に向けて活動しています。外来の時点で麻酔科、歯科、薬剤師、リハビリテーション、栄養師、MSW などの専門多職種による評価と事前のケアを行い、ベストな状況で入院直後から治療が開始されるようになれば、在院日数短縮や収益性の改善はもちろん、何よりも患者さんの満足度が向上すると確信しています。また現在は各科外来の医師や看護師、受付が行っていた業務を、入退院患者支援センター（仮）に業務集中させることで、各専門職が業務に専念できるようになり、医療の質向上にもつながると思います。

○ 紹介予約センターの強化

当院は電話と FAX で初診患者のご紹介を受ける役割を持つ「紹介予約センター」を有しており、4月からは事務職員 1 名と看護師 2 名の定年退職者を配置しています。特に専門知識を持ち、判断力、調整力を兼ね備えたベテラン看護師の配置により、ご紹介医療機関からの受診相談に適切かつ迅速な対応ができるよう心がけています。

○ 退院支援の充実

当院では MSW7 名と、PSW1 名、そして看護師 5 名で退院支援にあたっています。看護師の中には「がん看護」と「老人看護」の専門看護師がそれぞれ 1 名いますので、医療依存度が高く、様々な問題点を抱えた患者さんに対しても、きめ細やかな対応ができます。また今年度は看護部のワーキンググループと連携し、各病

棟に退院支援看護師を1名育成するべく活動を開始しています。患者さんの気持ちや状況を一番理解している病棟看護師に、地域包括ケアシステム構成要素の中で一番大切な根元にある「本人・家族の選択と心構え」の部分、つまり意思決定支援を行うことのできるスキルを身につけてもらうことを目標としています。

地域医療連携の基本となるものは、地域の医療機関との良好なコミュニケーションの積み重ねだと考えています。久留米大学病院も患者さんを中心とした地域医療のチームメンバーであることを、職員の一人一人が自覚し、地域における当院の役割をしっかりと果たしていきたいと思っています。

病院管理

医療機関と民間企業の違いと事務職のあり方

宗像医師会病院
総務課 課長

原口 幸聖

昨年より当院の事務職員として勤務するようになり1年が経ちますが、それまでは民間企業の事務職として約19年勤務してまいりました。その中で医療機関と民間企業の違いについて気付いたこと、および今後の医療機関の事務職のあり方について述べたいと思います。

<経営意識の違い>

前職の民間企業では売上目標とその実績比較、工場や営業部門の目標達成状況等の経営成績を全社員で共有する機会が定期的にありましたが、医療機関では全職員で共有するという機会が少ないように感じます。

医療機関には病気を治療し、人の命を預かるという使命があり、利益を得ることが第一の目的ではありません。しかし、民間企業では人を雇い、資金を調達して物を作り、売却して利益を得るということを第一の目的としています。

また、民間企業では社員が経営幹部や社長に

なれる可能性があります。医療機関では経営幹部の大半を医師が占め、医師が院長として病院経営を担います。そのため医師以外の医療従事者は経営マインドの意識が乏しいように感じます。

しかしながら、民間企業だけではなく、医療機関においても先見性を持った長期の計画で経営を継続させ、地域医療に貢献していくためにも、安定した経営戦略を培っていく努力が欠かせません。つまりは、経営者だけではなく全職員が経営に対して意識を持つことが重要だと考えます。

<経営者の違い>

民間企業であれば社長は経営戦略を立案し実行します。また、幹部社員をマネジメントすることで組織全体の管理監督や社員の意欲向上を図りますので、現場のことについては幹部社員をはじめ、部下に任せる場合がほとんどだと思

います。しかし、医療機関の場合は、民間企業でいえば社長にあたる院長も現場で働かなければなりません。それと同時に医療技術の進歩を常に研究し、素早く習得する必要があるため、病院経営だけに注力するということができないという現実があります。その他病院経営に携わる幹部職員も大半が医師であるため同様のことが言えると思います。そこで、経営の担い手である医師をサポートするため医療機関の事務職の役割は非常に重要であると考えます。

＜事務職員の違いと今後のあり方＞

以前、私の勤めていた民間企業では新しく社員が入社すると、まずは半年程度の期間を設けて事務、営業、研究、製造とすべての部署を数日から数週間単位で研修させていました。すべての部署を知ることで社内における「ヒト、モノ、カネ」の動きを知ってもらい、会社内での縦横のつながりを理解させるということが大きな目的でした。

医療機関では、各部署（診療部、診療技術部、看護部、事務部等）が独立しており、同一の人物がそれぞれの部署で経験をするということとはほとんどありません。だからこそ、各部署との連携や絆を深め、一連の流れをスムーズにし、情報を共有していく必要性があります。そして、その一翼を担うのが事務職であると考えます。

事務職としての役割は一般的に外来・入院の診療報酬に関する事務手続き、会計や財務に関する事務、労務管理、施設管理、対外的な報告等の窓口、他部署へのサポート等多岐に亘り、欠かすことのできないものです。しかし、これらの一般的な業務と併せて部門間の調整力、問題解決能力も必要です。医療機関は多くの専門職を含む多職種から成り立っていますので、それぞれの立場を考えなければいけませんし、トラブルや問題点の解決が必要となります。この点が民間企業の事務職とは違った医療機関の事務職員に必要とされる役割だと思えますし、その役割を担うことで、病院運営の円滑化につながるものと考えます。

最後に、これからの医療機関での事務職員として必要とされる人材は、レセプト業務一筋とか給与業務一筋といったスペシャリスト型人材ではなく、医事も総務も分かり、経営を含めた病院全体のことを見ることができるゼネラリスト型の事務職員だと考えます。機能分化と地域連携が推進される経営環境において、ますますその重要性は高まっていると考えます。

来年は診療報酬改定により病院改革が迫られる年だと思えます。直接的には関係のなさそうな事務職ではございますが、病院経営を安定化させるためにも今後の事務職員のあり方を見直していく必要性は非常に高いのではと考えています。

おもいやりの心でサポートします

県内精神科病院の寝具及び下着類の洗濯・貸与・販売・補修業務一切
他にグループ保険・病院賠償責任保険等の各種保険

福岡県精神科病院協同組合

理事長 富松 愈

〒810-0005 福岡市中央区清川三丁目14番20号 2F
TEL092-521-0690/FAX092-524-4632

九州一円の医療機関経営をサポートする
福岡県精神科病院協同組合100%出資会社

有限会社 DMS (ドリーム・メディカル・サービス)

〒810-0005 福岡市中央区清川三丁目14番20号 3F
TEL092-525-7666・7667/FAX092-525-7668



一番大切な思いやり...

「安心・安全・清潔」

TAIYO 太陽セランドグループ

太陽セランドホールディングス株式会社

〒812-0044 福岡市博多区千代1-1-5
TEL 092-641-2578 FAX 092-641-5778

太陽セランド株式会社

〒826-0042 福岡県田川市大字川宮1200
TEL 0947-44-1847 FAX 0947-44-5805

代表取締役 社長 中島 健介



医療関連
サービスマーク認定

太陽セランドグループ会社

┃ 太陽セランドホールディングス株式会社
┃ 太陽ホテルリネン株式会社
┃ 株式会社セランド

┃ 太陽セランド株式会社
┃ ジャパンエアマット株式会社
┃ 株式会社サンウエックス

┃ 太陽インダストリー株式会社
┃ 株式会社北九州シーアイシー研究所
┃ 株式会社おたふく屋

┃ 太陽シルバースervice株式会社
┃ 株式会社メディカルナビゲーション

お問い合わせ TEL 0947-44-1847

Mail info@taiyoseland.co.jp

Web <http://www.taiyoseland.co.jp>



管理師長に就任して

社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院
診療統括部門3(救急病棟部門) 管理師長

木下 和代

当院は、1953年「カトリックの愛の精神に基づく医療」を行なう事を定款に定め、結核病棟79床から始まりその時代の変遷に応じ変化してきた。2009年4月に社会医療法人の認定を受け、現在の41診療科1097床を有する「社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院」となった。365日24時間断らない救急救命医療を実践し、地域の住民から愛される病院を目指し日々精進している。

当院の看護部組織は、看護部長の下に教育担当副部長ならびに業務担当副看護部長が位置し、その下に5つの診療統括部門毎に管理師長が配置されている。私は、24年間勤務し病棟師長を経験した後、6つの7対1病棟ならびに回復期リハビリ病棟を統括する管理師長として2016年3月に就任することとなった。

【2016年診療報酬改定と病床編成】

2016年診療報酬改定に伴い、地域医療構想を踏まえ当院では「高度急性期・急性期」機能を同一法人内の別病院である聖マリアヘルスケアセンター(198床)は「回復期病棟並びに療養病棟」機能を集約する方針がたてられた。病床機能を集約するに伴い、看護体制も看護師の負担軽減が図れるよう「看護職員夜間12対1配置」ならびに「看護補助者の夜間配置100対1体制」を取得すべく、看護体制の再編成を行う事となった。看護師の負担軽減が図れるということは、「働きやすい職場」となるとともに「看護の質」の向上へと繋がる。病院方針である「365日24時間断らない救急救命医療の提供」を継

続すると共に常に質の高い医療・看護の提供が求められている。

管理師長として辞令を受けた私は、就任早々に看護部長より病院方針についての説明を受け、回復期リハビリ病棟の休床ならびに看護配置の再編成という課題について知ることになった。休床ということで、既に入院されている患者さんへの説明や病床調整をどのように進めていくのか…？ 病棟スタッフへの説明や勤務部署の配置替えはどのようにするのか…？ 課題が山積されたように感じ、どう対応していくのか考え茫然となった。

病棟看護師や病棟師長での勤務経験時にも、病棟編成や人事調整などについては何度とはなく経験してきたことではあるが、就任早々に病院方針に係わる事について指示することになるとは…指示を受ける側の気持ち、過去の経験・想いが巡り休床を告げる時、どのように説明を行えばいいのか…？ 言葉を発する責任の重さを感じた。

幸いに回復期病棟師長は、経験豊富な師長であり病棟スタッフのモチベーションを保ちつつ前向きに「休床する」という課題に取り組むことができた。8月には無事に休床の日を迎え病棟スタッフは、それぞれ新しく希望した病棟へ異動するができ、新看護体制がスタートした。管理師長として、多くの人の協力を得て初仕事を終えることができたが、新しい看護体制の整備と「看護の質の向上」そして「働きやすい環境づくり」をどのように行っていくのか考えさせられた。

【認定看護管理者教育 セカンドレベル受講】

病棟編成や人事異動に悩み右往左往する中、看護部長より「(認定看護管理者)セカンドレベルを受講してみては？」と一声…。「業務も十分出来てないし…子供の学校行事が重なったら…」等々の不安があり、一度はお断りしたが再度のお声かけ…「管理師長として働くのであれば、やはり知識は必要！」と覚悟を決めて応募し、のちに受講が決定した。

9月より開講し、37名の受講生とともに4ヶ月間にわたり学ぶこととなった。開講直後は、慣れない環境で他病院の受講生と接する度に緊張し…また講義では講師の先生方からの質問にうまく返答ができるか？ ハラハラ…ドキドキ…(汗)な状況だった。講義を通じて色々な知識を得て、理論や課題に取り組む方法について学び受講生それぞれの意見や想いを聞き、意見交換ができた。受講生同士のディスカッションは日頃からの悩みを共有できる場となり、顔を合わせる毎に楽しく学ぶことができた。また講師の先生方からも豊富な経験談を聞くことで、並々ならぬパワーを感じた。

私が取り組むべき課題についても個別指導やグループワークを通じて、一緒に検討する機会を得ることができた事は貴重な時間となった。どのように対応したら課題を解決に導くことができるのか？今の自分に出来る事は何か？を考え、セカンドレベルでの最終課題である「改善計画書」を作成することができた。取り組むべき課題として、まず「看護補助者の有効活用」について検討した。「看護補助者を有効活用することで、看護師の負担軽減ができ質のよいケアが提供できる。また、時間外労働が削減することができ、牽いてはやりがいを持ち働き続けられる職場となる。」とあるべき姿と考えた。2025年が目前に迫る超高齢化時代においては更なる看護業務の増加が予想される。看護補助

者業務と看護師業務について役割の再検討も必要であり、看護師の負担軽減を行うことが看護の質の向上へと繋がると考え「改善計画書」作成し、セカンドレベル教育過程を無事に終えることができた。

現在、日々の日常業務を行いつつ傍ら「改善計画書」に取り組んでいる。しかし、取り組むうちに難しい局面にも遭遇し時折暗礁に乗り上げそうになる。机上の空論とならぬよう、諦めずに継続して取り組む姿勢が大切であると感じるこの頃である。

課題があることで目指す目標が明確になり、行動に移すことが出来る…今回は、そのきっかけがセカンドレベル受講であった。今後も引き続き管理師長としての目指すビジョンを持ち、行動計画をたて実行していくことが重要と考える。

1年後のフォローアップ研修にて懐かしい仲間や先生方へと報告出来ることを楽しみにしつつ、取り組みを継続していきたい。

管理師長として1年がたち、今年も新入職員が入職した。この文章が発刊される頃には、新人看護師も配置された部署に慣れ業務に従事していることと思う。私自身、当院に入職して25年が経過した。働き出した頃と今では、環境も大きく異なるがすべてにおいて今が以前と比べ働きやすい良い環境となっているか…？と考えさせられることもある。今年就職した新人看護師も含め、職員が継続して「やりがいを持ち働き続けられる職場となる」ために管理師長として、如何に取り組んでいくのか引き続き今後も大きな課題と考える。

2025年を目前に、病める人の想いや考え、求められるものも益々多様化してくると思われる。しかし、いつの時代になっても当院の理念である「カトリックの愛の精神による保健・医療・福祉及び教育の実践」の中にある「常に弱い人々のもとに行き、常に弱い人々とともに歩

むこと」の精神は変わらず、患者から求められる理念であると感じる。「地域の住民から愛さ

れる病院」と成るよう、微力ながら今後も取り組んで行きたい。

看護 の窓

就任のご挨拶

久留米大学病院
看護部長

上野 知昭



平成 29 年 4 月より野田順子看護部長の後任として、久留米大学病院看護部長に就任いたしました 上野^{ちあき}知昭です。どうぞ、宜しくお願いいたします。私は、1986 年 4 月に久留米大学病院へ入職しました。臨地実習の際に、ヒルシュシュプルング病で生後すぐから長期に渡り入院生活を送る 6 歳の男児を受け持ちました。退院準備期で食事・薬物療法を中心としたご家族への退院指導、成長発達段階に応じた援助など多くのことを学びました。患者さん、ご家族、実習指導者、医師との関わりから、小児看護の幅の広さと奥深さを感じ、知的好奇心を膨らませ、小児病棟への配属を第 1 希望としておりました。念願が叶い、勤続 31 年のうち 17 年間に小児病棟や総合周産期母子医療センターでございました。かけがえのない日常、一瞬一瞬を大切に、生命の灯を燃やしている小児がん、先天性心疾患などの子供たちの姿が瞳にやきついており、病に向き合う患者さんを尊敬するという私の看護観のベースになっております。

平成 27 年 4 月に副看護部長職を拝命し、指示簿の標準化、看護師の静脈注射実施範囲の拡大、精神科リエゾンチーム活動、勤務環境改善・ワークライフバランス推進活動などに取り組みました。なかでも日本看護協会の夜勤交代制ガイドラインを遵守した変則 2 交代制の試行、および看護方式を継続受け持ち式固定チー

ムナーシングからパートナーシップナーシングシステムへの変更は、看護部にとって大きな変革でした。福岡県看護協会 WLB 推進プロジェクトの支援を受け、ジョン・P・コッターのリーダーシップ理論、変革の 8 段階を易しく紐解いた「かもめになったペンギン」を指南書として、コアメンバーの凝集力を高め、コツコツと変革を推し進めました。フレームワークを活用し、ミッション・ビジョン・現状・課題・ゴール・取り組み・成果を見える化し、小集団活動を促しました。見える化は、保有知識やノウハウを共有し、気づく、調べる、分析する、モニターする、チェックする、まねる、応用する、行動するなど、改善行動の促進につながります。WLB インデックス調査結果は、平成 26 年と 28 年を比較すると「現在の働き方に満足している」34.5%→41.9%、「現在の生活（家庭生活・地域生活等）に満足している」47.9%→50.8%へ上昇し、新卒看護師の離職率は、12.7%→8.5%へ低下しました。

我が国は、少子高齢化、経済の低迷の時代にあり、社会保障制度を継続可能とするために、法・制度など大きな改革の動きが進められています。私は、改めて、久留米大学病院の社会的責任、地域における存在意義について考えました。久留米大学の基本理念「真理と正義を探究し、人間愛と人間尊重を希求して、高い理想を

もった人間性豊かな実践的人材の育成を目指すとともに、地域文化に光を与え、その光を世界に伝え、人類の平和に貢献することを使命とする。」のうち、不安定な社会情勢の今こそ、高い理想をもった人間性豊かな実践的人材の育成が重要であると再認識しております。

人々のいのち・暮らし・尊厳をまもり支えるために、急性期病院では、① 患者の病態を把握し、高度で安全な医療を提供する力、② チーム医療・チームケアをマネジメントする力、③ 今後ニーズの高まる認知症・がん患者の医療・看護を実践する力、④ 人生の最終段階における意思決定を支援する力等が求められています。

実践的人材の育成のため、当院では、院内認定看護師教育として、クリティカルケア、IV ナースインストラクター、皮膚排泄ケアなどのコースがあり、公開講座には地域の看護職の方々も参加されています。看護の標準化と安全性を担保するために、平成 27 年度に看護手順として e ラーニングを導入しました。最新の看護手順をオンラインまたは電子カルテ端末 PDF からタイムリーに入手することができます。新人看護職員研修や看護補助者研修、OJT に活用しています。また、救急蘇生技術や輸血の取り扱いなど久留米大学病院オリジナル動画を掲載し、好評を得ています。このほか、新たに認知症・がん患者の看護実践能力の向上のために認知症ケアチームやがん看護委員会を設置いたしました。

目的・目標を達成するために、教育や組織化は必須ですが、手段を目的化してはならない、課題進捗管理のプロセスが重要であることを WLB 推進プロジェクトで学びました。

看護部へのステークホルダーからの期待をもとに職場の使命を熟考し、課題進捗状況を見え

る化し、改善活動を推進いたします。組織の使命を果たし、地域へ貢献できるよう、微力ながら努力する所存でございますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



久留米大学の基本理念

真理と正義を探究し、人間愛と人間尊重を希求して、
高い理想をもった人間性豊かな実践的人材の育成を目指すとともに、
地域文化に光を与え、その輝きを世界に伝え、人類の平和に貢献することを使命とする。

私たちの理念

人と地球にやさしい、生命(いのち)を慈しむ医療

私たちのめざす医療

1. 患者中心の医療
生命の尊さにもとづき、患者や家族の権利を尊重し、心のかよう医療を行います。
2. 共生の医療
地球環境にやさしい共生の医療をめざします。
3. 高度で安全なチーム医療
安全性を確保し、高度で専門的なチーム医療の確立をめざします。
4. 地域と共に歩む医療
地域医療機関との連携を密にした、継続性のある医療を行います。
5. 優れた医療人の育成
教育機関として高水準の医療技術と思いやりを備えた医療人の育成に努めます。

14

久留米大学病院概要

特定機能病院、
地域がん診療連携拠点病院、福岡県総合周産期母子医療センター、
高度救命救急センター災害拠点病院ほか
23診療科、5メディカルセンター、16診療部許可病床数1025床(稼働病床数973)
2016年度の統計
* 1日外来平均数: 1761名 * 1日平均入院患者数: 775名
* 一般病床平均在院日数: 14.3日 * 一般病床利用率: 80.4%

【看護部の概要】

入院基本料 7:1 勤務体制 3交代制(多様な勤務形態試行中)
看護師数 1093名(女性1002名、男性91名)
看護師平均年齢 35.6歳
看護師平均在職年齢 12.7年
看護師退職率 8.5% 新卒看護師退職率 8.2%
看護師既婚率 48.3%
看護師未就学児有子率 15.9%

KURUME
UNIVERSITY



就任のあいさつ

社会医療法人 製鉄記念八幡病院
看護部長

倉地 美智子

平成 29 年 4 月 1 日より社会医療法人製鉄記念八幡病院の前坂本弘子副院長兼看護部長の後任として看護部長に就任いたしました倉地美智子です。どうぞよろしくお願いいたします。

製鉄記念八幡病院は、平成 27 年にユネスコの世界文化遺産に登録された官営製鐵所の附属病院として明治 33 年（1900 年）に設立され、今年で 118 年目を迎えます。当院は、453 床の地域医療支援病院であり、地域の中核病院として急性期医療を担っています。一方で、2025 年、超高齢化社会を迎えるにあたり、国の目指す地域包括ケアシステムでは、医療需要に見合った病床機能の再編が必要とされており、全体として急性期の縮小と回復期の拡大が課題となっています。これを踏まえ、当院では、急性期病棟を縮小し、平成 27 年に地域包括ケア病棟、平成 28 年回復期リハビリテーション病棟を開設しています。また、当院は高齢化率 33% を超える北九州市八幡東区に位置し、退院時に医療依存度の高い患者や介護を要する中、老老介護、高齢者の一人暮らしの患者さんも多く、患者さんが安心して在宅に移行できるように平成 28 年、訪問看護ステーションを設置し在宅ケアへと継続したケアの実践に向けて取り組んでいます。

看護部では、100 年にわたり築いてきた温かい職場風土と理念である「心のかよいあう思いやりのある看護」の実現に向けて、患者さんに寄り添える感性豊かな質の高い看護の実践を目標としています。少子高齢化が急速に進み、療養の場を「医療機関から暮らしの場へ」と変革

の時代を迎えています。これからの看護師には、患者さん一人ひとりを地域における生活者として捉えたうえで、退院後の生活に視点を置き病院と地域の多職種と協同、連携しケアをつなげていく能力がより求められるようになります。当院では、医療と在宅ケアの推進に向けて 3 か月に 1 回、地域のケアマネージャーと病院スタッフとの「連携カフェ」を開催し急性期病院と在宅ケアの課題に焦点をあて情報交換を行っています。

今後も地域の中での医療と介護の連携における役割を認識し、患者さんが安心して住み慣れた地域で過ごせるように患者さんやご家族に常に寄り添い、自己決定の支援ができるよう看護師を継続して育成していきたいと考えています。

また、「思いやりの心」を看護の原点に看護職員全員が専門職業人として明るく、やりがいを持ち看護を実践できる職場環境づくりを行い、100 年以上前から地域の皆様に愛されてきた当院が 100 年先も地域を支える存在であるように職員全体で努力していきたいと思っています。



社会医療法人 製鉄記念八幡病院

考えるということ

学校法人原学園 原看護専門学校 学 校 長 朔 元 則
国立病院機構 九州医療センター 名誉院長

なぜ why?

日に新たであるためには、いつも「なぜ」と問わねばならぬ。そしてその答えを、自分でも考え、また他にも教えを求める。素直で私心なく、熱心で一生懸命ならば、「なぜ」と問うタネは随所にある。それを見失って今日は昨日の如く、明日も今日の如く、十年一日の如き形式に墮したとき、その人の進歩は止まる。社会の進歩も止まる。

松下幸之助（PHP 新書より）

私は、新一年生の最初の医学概論の講義では、冒頭に示した松下幸之助氏の文章をスライドで示しながら「考えることの大切さ」を学生達に熱く説くようにしている。

私の高校時代もそうであったように記憶しているが、高等学校での教育では事実を羅列してそれを覚えさせることだけに終始して、「事実を学んだ後に、さらにそれに基づいて思索する」というような教育はなされていないと思うからである。たしかに大学受験のために膨大な量の事実を学習しなければならない高等学校の教育において、思索に時間をかける余裕などはないというものよく理解できる話である。

松下氏は「なぜと問うタネは随所にある」と述べておられるが、高校を卒業したばかりの若い人達に興味を持ってもらうタネを探すのは意外に難しい。私の場合、医学概論の講義開始時期が丁度入梅前の6月になることが多いので、五月雨をあつめて早し 最上川 という芭蕉の有名な句を持ち出して、「元禄2年6月3日（旧暦）に詠まれた句であるから五月雨（現在は五月晴れはあるが、五月雨はもう完全な死語である）は理解できるが、なぜ6月の長雨が梅の雨なの？」と尋ねる

ことにしている。梅雨の語源は、1) 揚子江流域で梅が熟する頃に降る雨、2) 霪^{かび}が生え易い時期の雨という意味の霪^{ばいう}雨が梅雨となったという二つの説があるようだが、未だ正解を答える学生に出会ったことはない。

芭蕉だけでは少し物足りない感があるので、次に私が提示するのはルーブル博物館の至宝ミロのヴィーナスの像である。1820年4月、ギリシャの農夫が競技場の跡地の畑の中の煉瓦に囲まれた穴の中から、この像を掘り出した時からその両腕は欠落していた。当時のギリシャ彫刻はすべて五体満足に彫られていたから、完成時には腕はあった筈である。右腕は着衣が落ちないように掴んでいたと考えて間違いのないと思われるが、問題は左腕である。左腕はどのようなポーズを取っていたのであろうか？ もちろん正解は誰れにも判らない。しかし数々のギリシャ神話を考えながら、ミロのヴィーナスの左腕について思索する楽しみだけは万人に与えられているのである。

我思う ゆえに我在り

思索することの大切さを説いた言葉として最も有名なのは、論語にある「学而不思則罔。学びて思わざればすなわち罔し」という言葉であろう。2500年前に孔子が語ったとされる言葉であるが、大変ストレートに表現されているし日本人の間には広く知れ渡った言葉であるので、今更解説する必要もないと考える。

しからばこのことを西洋の著作の中に求めるとすればどういう言葉に行き着くのであろう。私はフランスの哲学者で自然科学者デカルト（René Descartes, 1596～1650）が1637年に出版した方法序説の中で述べている「我思う ゆえに我在り」という言葉が考えることの大切さを説いた言葉の

代表ではないかと考えている。

原語のフランス語では Je pense, donc je suis である。これをデカルトの友人メルセンヌがラテン語に訳した時（当時は重要な科学論文や哲学書、神学書などはラテン語で著述されていた）、Cogito ergo sum と僅か 3 文字の短い単語で表現したので、哲学的なニュアンスが大きく加味された。日本語訳も極めて抽象的で哲学的である。ちなみに英語訳は I think therefore, I am である。

しかしこの方法序説という本は、三つの科学論文を収めた 500 頁にも及ぶ大著であり、「我思う ゆえに我在り」という言葉はその序説（最初の 78 頁）の序文の中に出てくる言葉だそうである。この方法序説の初出版時のタイトルは「理性を正しく導き、学問において真理を探究するための方法」という長ったらしい題名であった。このようなことを考え合わせると、このデカルトの言葉は自然科学に対する姿勢を語ったものであって、哲学的に深読みすることはないのではないかと私は考えている。

哲学を専攻されている方からはお叱りを受けそうであるが、an aging surgeon の単細胞的思考では、デカルトの「我思う ゆえに我在り」も孔子の「学びて思わざれば即ち^{くら}罔し」も「ヴィーナスの左腕はどうなっているの？」というようなレベルの話になってしまうことをお許しいただきたいと思っている。

しかし洋の東西を問わず、「考える」ということの大事さは万代不易の最重要事項であることに変わりはない。ヒトの学名ホモサピエンス (Homo sapiens) は賢い種（即ち考える動物）という意味なのであるから。

考える外科学

平成 29 年 4 月 27 日から 29 日まで、横浜市のパシフィコ横浜で開催された第 117 回日本外科学会定期学術集会（会頭は桑野博行群馬大学大学院総合外科学教授）のメインテーマは「医療安全そして考える外科学」であった。桑野会頭が意図されたのは「日頃の外科臨床の中で、当然のこととして本質的議論をすることなくいわば置き去りに

していたような命題を正面から捉え直して議論しよう」という試みである。

今回の学会では、このメインテーマに沿って「考える外科学」というシンポジウム形式の特別企画が 11 テーマ選定されていた。特別企画の 11 演題をすべて列挙するには紙面に余裕がないが、「認知症を有する症例に対する心臓血管手術を考える」など、従来の外科の視点からではなく、高齢化社会を迎える我が国の外科手術のあり方を考え直すテーマも数多くあり、桑野会頭の外科臨床に対する日頃の姿勢がうかがえる素晴らしい企画であった。

学会のもう一つのテーマ医療安全は、群大第一外科が 2017 年の外科学会を主催することが既に決まっていた 2015 年 3 月になって、マスメディアを賑わした群大第二外科で起こった腹腔鏡下肝切除術における術死多発事件を受けて設定されたテーマであると考えられる。当時の群大第二外科におけるガバナンスの欠如が事件の原因と私は考えているのであるが、この問題が大きく報道されたために、同じ群大外科ということで桑野教授は大変な苦境に立たされたと仄聞している。今回の学会ではこの問題を群馬大学全体の問題として捉えて、真正面から議論されていたことがとても印象的であった。

会長講演等の公式な発言の場では勿論のこと、懇親会等でのプライベートな雑談の中でも「あれは第二外科で起こった問題ですから…」などという発言が群大第一外科関係者の誰一人からも聞かれなかったことには敬服した。「天を怨まず 人を咎めず」とは論語にもあるが、「恨み節」を一切吐かずに、ただ真正面から医療事故について分析し、自分のこととして反省する姿勢を貫くことは実際には大変難しいことであったであろうと私は考えている。

最後は少し脱線してしまったが、今月の Letter は第 117 回日本外科学会のテーマ「考える外科学」に触発されて、日頃私が考えている「思索することの大切さ」について語らせていただいた。

橋立に似た地形

元 医療法人誠十字病院 安田 宏一
平衡神経科 医師

ある日新聞に、実に美しい砂浜の写真が出ていた。鹿児島県の甕島（こしきしま）の観光案内であった。ぜひここに、行ってみたいと思った。何年か後になって、それが実現した。実際に見てみると、そこは単なる砂浜ではなく、海の中に出来た細長い砂州であった。「これは、もうひとつの天ノ橋立だ」と感じた。展望台から見ると、砂州の右に海がひろがり、左は湾が砂州でしきられて、湖になっていた。この場所を、長目の浜と呼ぶ。

あらためて、天ノ橋立に行ってみた。ここでも、阿蘇海という湾を橋立が塞ぐように伸びていた。ただ、わずかな隙間で外海とつながっていた。長目の浜と異なるのは、砂州に生えた松が、大きく立派なことであった。ここには、平安時代から松が生えていたという。代替わりをしたとしても、古いものであろう。

別の日に、クロスワード・パズルをやっていた。問題に「北海道で一番大きな湖」というのがあった。わたしは、洞爺湖しか思いつ

かなかったが、言葉が合わない。そこで日本地図を開いてみた。それが「サロマ湖」ということが分かった。地図で地形を見ると、まさに湾を砂州が塞いで、湖を作っている。砂州の長さを調べてみると、天ノ橋立が2.2km、長目の浜が4.0km、サロマ湖は20.0kmであった。やはり北海道は、スケールが大きい。

このような細長い砂州が、どのようにしてできるのか。まず砂州の砂は、海底から運ばれるのではない。湾の近くの川から、流されてきたものである。また波は、湾に直角に押し寄せるのではなく、湾にそって海岸づたいにやってくる。それで海流は湾内には、入り込まない。湾の入り口に砂を落として、波は湾を素通りしていく。その繰り返して、湾の入り口に砂州が出来上がる（「天橋立学への招待」法蔵館、2017年）。

博多湾の海ノ中道もこのようにしてできたのだが、雁ノ巣や西戸崎、志賀島があって、橋立の形にはならなかった。



甕島、長目の浜

人体旅行記

「太 腿」

国立病院機構 九州医療センター 吉住 秀之
医療情報管理センター 部長

前回の膝の旅では古代ギリシャを逍遙しましたが、ギリシャ神話で太腿と言えば、葡萄の神であるディオニソスの誕生譚が思い浮かびます¹⁾。彼の母はセメレーという娘ですが、父はなんと最高神のゼウスでした。そんな二人の関係を許せないのがゼウスの正妻であるヘーラーでした。ゼウスがセメレーに「どんなお願いでも聞いてあげるからね」と請け合っていたのを知っていたヘーラーは、それを利用して、何も知らないセメレーを唆し、彼女に「正妻であるヘーラーに会いに来るときの姿で私にも会って欲しいの」と求めさせます。ゼウスはそれを真に受け、雄姿を見せようと雷霆として参上。結果セメレーは落雷による電撃で即死（ICD10ではX33）。慌てたのはゼウスで、すぐさま彼女が身ごもっていた子を取り出すや、自分の太腿に埋め込みます²⁾。子宮ごと摘出して、血管吻合をしたのかと思いますが、拒絶もされず月満ちて無事生まれたのがディオニソスでありました。もちろんヘーラーには内緒で、生まれた後は、女性として正妻の目に触れないようにして養育します。その後嫉妬に狂ったヘーラーの所作も後日譚としてあるのですが、まったく神話らしくないこの神話からは、それぞれの立場にある男女がそれなりの教訓を汲み取れるように

なっていますね。

ちょっと学問的に考えると、ディオニソスはギリシャからすると異郷（トラキア・マケドニア）の神であり、その神を輸入するにあたり、なんとか神の系譜に組み入れないとならないので、上のような神話が作られたのではなかろうかと推測します。ギリシャから出土しているクラテール（混酒器）やアンフォラ（壺）には、ゼウスの太腿からディオニソスが生まれる場面や、生まれたディオニソスがゼウスの膝の上に立っている姿が描かれています（これは前回の膝の上に抱いて子を認知するという風習にも関係していて興味深いですね）。

- 1) 高津春繁（1960）『ギリシア・ローマ神話事典』岩波書店
- 2) 神話に登場する神々には、「遠矢を射るアポロン」や「雷鳴を轟かせるゼウス」のように添え名（エピテトン、英語のエピセツト）がつきます。ディオニソスには添え名の一つとして「エイラピオーテース」という形容詞がつきますが、これは「縫い込まれたもの」を意味します。

50年前の女子学生

元国家公務員共済組合連合会 戸次 式子
浜の町病院 診療情報管理士

昨年末、K大学女子卒業生の会の50周年記念号会誌が送られてきた。この会は昭和41年秋の「薬学部製薬学科への女子学生入学規制」に抗議して、当時の女子卒業生たちが結成したものだ。それ以来会は継続され、年一回の総会と会誌の発行が行われて来た。

今回の記念号には「K大学女子の今昔～50年を振り返って」というテーマで、それぞれの場で活躍中の数人の寄稿文があった。どれも読みごたえのあるものだったが、その中で修士在学中の一人の文章に興味を引かれた。というのは、そこには私達が入学した年に創部されて、私自身が大学4年間在籍した混声合唱団サークルの事が書かれていたからだ。

文の冒頭には、その合唱団が2016年3月にイタリア、ヴァチカンのサンピエトロ大聖堂において、大勢の信者を前に賛美歌を歌ったという事が書かれていた。サンピエトロ大聖堂と言えばカトリックの総本山であり、世界各地から大勢の観光客が訪れるところだ。あの大聖堂で歌うなんて、海外旅行もまだ自由ではなかった私たちの時代からすると、夢にも思われぬ出来事だった。

しかし私が多少の驚きと違和感を持ったのは、現在の学生が見ている私達50年前の女子学生の姿およびサークル感だった。文の中に「当時、大学に行く女性は非常にまれな存在で、大勢の男性の中に入っていくことは女性にとって非常に勇気のいることだった。(中略)その当時、男性と女性が力を合わせて何かを作り上げるという事は思いもよらない事だった。それは、男性と女性が同じものを共有できるという感覚が

ほとんどなかったからだ。」などと書かれていたのだ。私はこの寄稿文をサークルの同期生たちにメールで送った。それを読んだある男性は「まるで男女7歳にして席を同じゅうせずの時代のようだ」と言い、別の男性は「当時の女性陣は強かったので、いつも気を使っていたような…」等と冗談交じりで書いてきた。また女性も「当時、男性の中に入りづらい意識は全くなかったような…」と返信してきた。

小学校入学以来ずっと男女共学の中で過ごしてきた私達にとって、サークルの同期生たちは50年経った今でも、一緒に旅行したりメールで近況を報告し合う間柄である。言ってみれば、男女間であっても合宿等で“同じ釜の飯を食べた”仲間意識がずっと続いている気がしている。

しかし所謂“十年一昔”という事から言えば、50年前と言うのははるか遠い昔の事を意味する。そこで思いついて私達が卒業した1967年(昭和42年)から50年遡った時代を調べてみた。すると1917年は元号で言えば大正であった。ロシア革命の年であり、第一次大戦の最中でもあった。また1923年には関東大震災が起こっていた。まさに内外ともに激動の時代だったのだ。一方、学生当時の私達を思い返してみれば、1917年前後の時代背景の中での、創立後間もない大学の学生生活など一度も考えたことがなかった。実体験していない50年前というのは単なる歴史上の一コマでしかない。現在の学生が私達の学生時代に理解が及ばないのは当然の事だ、と改めて納得したことだった。

●福岡県私設病院協会・福岡県医療法人協会プラザ

平成 29 年 5 月福岡県私設病院協会の動き

◎ 理事会

日 時 5 月 9 日 (火) 午後 4 時

場 所 会議室

議 題

1. 会長あいさつ
2. 協議事項
 - (1) 会員異動について
 - (2) 研修会について
 - (3) 地域医療構想について
 - ① 県医療指導課の「平成29年度病床機能転換予定状況調査」について
 - ② 病床機能転換に関する緊急告知第二報について
 - ③ 平成29年度第1回地域医療構想調整会議委員・各医師会担当理事合同会議について
 - ④ 京築医療圏の地域医療構想調整会議私病協代表委員の推薦について
 - ⑤ その他
- (4) 平成28年度事業報告等について
 - ① 平成28年度事業報告(案)について
 - ② 平成28年度収入支出決算(案)について
 - ③ 平成28年度公益目的支出計画実施報告(案)について
- (5) 第4回定時総会について
 - ① 総会提出議案書(案)について
 - ② 総会及び懇親会の役割分担について
 - ③ 来賓招待者について
- (6) その他
 - ・「第11回県民公開医療シンポジウム」の後援について
3. 報告事項
 - (1) 私設病院協会
 - (2) 看護学校
 - (3) 医療関連協業組合
 - (4) 全日病本部・全日病福岡
 - (5) その他

- ・平成29年度福私病ニュースの表題について
- ・福岡県慢性期医療協会講演会の案内

◎ 事務長会運営委員会

日 時 5 月 18 日 (木) 午後 3 時

場 所 会議室

議 題

1. 協議事項
 - 職員の確保と定着について
2. 情報交換について
3. 報告事項
 - (1) 私設病院協会研修会について
 - (2) 私設病院協会 3 月～4 月の動き
 - (3) その他

◎ 第4回定時総会

日 時 5 月 26 日 (金) 午後 3 時 50 分

場 所 ホテルオークラ福岡 3 階

〈オークルーム〉

議 事

- ・報告事項 1 平成28年度事業報告
- ・第1号議案 平成28年度計算書類承認の件
- ・報告事項 2 平成28年度公益目的支出計画実施報告
- ・報告事項 3 平成29年度事業計画について
- ・報告事項 4 平成29年度予算について

◇ 講演会 ホテルオークラ福岡 3 階

〈メイフェア〉午後 4 時 50 分

- ・演 題 「これからの医療政策や問題点、民間病院の今後のあり方」

・講 師

一般社団法人日本医療法人協会 会長

社会医療法人協和会 加納総合病院 理事長

加納 繁照 氏

◇ 懇親会 ホテルオークラ福岡 3 階

〈オークルーム〉午後 6 時

理 事 会

◎ 第45回 理事会 報告

日 時 平成29年 5 月23日 (火) 16:00～
場 所 福岡県医師会館 6 階 研修室 3
(福岡市博多区博多駅南 2 丁目 9 番30号)

出席者 (敬称略)

会 長 石橋

副会長 志波、竹中

理 事 平専務理事、上野総務理事、
澄井財務理事、壁村企画理事、安藤、
飯田、一宮、大塚、小柳、島、津留、
深堀、増本、吉田、吉村
計 18名 (※理事総数 25名)

議 長 岡嶋

監 事 津田

顧 問 今泉、八木

I 行政等からの通知文書

平成29年度第 1 回地域医療構想調整会議委員・各医師会担当理事合同会議の開催について (福岡県医師会長発)

II 報告事項

1 公益目的事業関係

(1) 各種委員会・研修会関係

【開催結果】

ア 第1回看護委員会

一宮担当理事から、報告があった。

日 時 平成29年 4 月27日 (木) 13:30～
場 所 福岡県医師会館 6 階 研修室 5
協議事項

1. 委員の交代について

新任の委員 飯塚病院
看護部長 森山由香
久留米大学病院
看護部長 上野知昭
製鉄記念八幡病院

看護部長 倉地美智子

公立八女総合病院

看護部長 井樋涼子

2. 平成29年度看護研修計画について
10月に開催予定の第152回では、認知症ケア加算 2 を取るために必要な、認知症対応力向上研修を企画し、現在、厚生労働省からの許可を得るために交渉中である。
3. その他
新任の委員については、理事会に承認を求めた結果、異議なく認められた。

イ 診療情報管理研究委員会

増本担当理事から、報告があった。

日 時 平成29年 5 月22日 (月) 13:30～
場 所 JR博多シティ 10 階 小会議室 H
協議事項

1. 平成29年度研修計画
第55回診療情報管理研究研修会を、10月11日 (水) に、九州大学医学部百年講堂で開催することが決まり、テーマは「適宜調査・クリティカルパス」を予定している。なお、第 5 6 回は来年の 2 月 22 日 (木) に開催することが決まった。
2. 委員の交代 (予定)
新任の委員 済生会福岡総合病院
診療情報管理室 土橋佳代子
国家公務員共済組合連合会
浜の町病院 情報企画課
診療録管理室 重松千恵
3. その他
新任の委員については、理事会に承認を求めた結果、異議なく認められた。

【開催予定】

ア 第2回企画委員会

日 時 平成29年5月23日(火) 17:00～

場 所 福岡県医師会館 6階 研修室 5

協議事項

1. シンポジウムのチラシについて
2. その他

イ 第150回看護研修会

島担当理事から、内容について説明があった。

日 時 平成29年6月7日(水) 9:50～

場 所 九州大学医学部百年講堂

テーマ 看護職のためのメンタルヘルス
不調者の復職支援

1. 「メンタルヘルス制度の概略と復職
支援実施要領」

産業医科大学病院

看護部長 長野裕子

産業医科大学病院

看護師長 萩原由美

細田悦子

2. 「看護師の復職の事例から学ぶ」

産業医科大学 保健センター

副センター長 立石清一郎

産業医科大学病院

看護部長 長野裕子

産業医科大学病院

看護師長 堀辺恵美

産業医科大学

保健師 榎田奈保子

3. 「復職面談の実際」

産業医科大学 保健センター

副センター長 立石清一郎

ウ リハビリテーション委員会

日 時 平成29年7月13日(木) 14:30～

場 所 福岡県医師会館 6階 研修室 4

2 収益事業、法人事務等関係

(1) 各種委員会、研究会関係

【開催結果】

ア ほすびたる編集委員会

岡嶋委員長から報告があった。

日 時 平成29年5月23日(火) 15:45～

場 所 福岡県医師会館 6階 研修室 3

協議事項

- ① 6月号の現況について
- ② 7月号・8月号の編集について
- ③ その他

暑中見舞いの広告について、案内があった。

塚崎委員から、平野委員に委員の変更があった。

(2) 「第44回理事会」の議事録について

平専務理事から説明を行った。

理事会の承認を受けた。

(3) 3月分収支報告について

澄井財務理事から説明を行った。

理事会の承認を受けた。

(4) 「平成28年度収支決算会計監査」について

津田監事から、具体的な報告があった。

理事会の承認を受けた。

(5) 病院管理者の変更について

平専務理事から説明があった。

久留米大学病院、産業医科大学病院、福岡東医療センター、済生会福岡総合病院、親和会共立病院、大牟田中央病院から、病院管理者の変更が届け出された。なお、久留米大学病院、福岡東医療センター、済生会福岡総合病院では、会員の変更はなかったので、引き続き理事をお願いする。また、久留米大学病院の志波先生には引き続き副会長をお願いする。理事の交代は、産業医科大学病院のみで、佐多先生から新病院長の尾辻先生に理事(副会長)の変更があるが、正式には6月の定時会員総会に諮ってから決まる。

理事会の承認を受けた。

(6) 平成29年度第1回医療審議会について

竹中会長から、第7次保健医療計画の策定について説明があった。

① 15:45～ ほすびたる編集委員会

② 16:00～ 理事会

③ 17:00～ 会員総会

終了後、懇親会を開催。

場 所 ANAクラウンプラザホテル福岡

Ⅲ 協議事項

(1) 定時会員総会の議案について

第1号議案 平成28年度事業報告について
平専務理事から説明があった。

第2号議案 平成28年度収支決算について
澄井財務理事から説明があった。

第1号議案、第2号議案について、6月の定時会員総会に提案することについて、理事会の承認を受けた。

(2) 入会申込みについて

やました甲状腺病院（福岡市博多区）からの入会申込について、平専務理事から説明があった。

理事会の承認を受けた。

(2) 平成29年7月

ア ほすびたる編集委員会・理事会

日 時 平成29年7月25日（火）

① 15:45～ ほすびたる編集委員会

② 16:00～ 理事会

場 所 九州大学医学部百年講堂
中ホール3

3 その他（行事予定）

平専務理事から、今後の日程について、説明があった。

(1) 平成29年6月

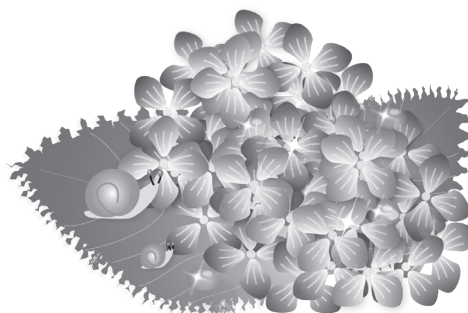
ア ほすびたる編集委員会・理事会・定時
会員総会

日 時 平成29年6月27日（火）

4 最近の医療情勢について

上野総務理事から、当協会からの地域医療構想調整会議委員の推薦について、協議したいとの意見が出された。次いで、私設病院協会の委員の推薦についての実情について、津留理事から説明があり、私設病院協会では、役員だけではなく一般会員も対象とし、全員当該区域内から委員を推薦しているとのことであった。そこで、当協会が区域外から推薦している委員については、役員だけではなく会員も含めた中から、五役会で人選を行い、次回の理事会に諮る方針が提案され、了承された。

その他、地域医療構想調整会議について、志波副会長、一宮理事、津田監事から意見が出された。



ほすびたる6月号をお届けします。

今月号は、年度が変わり、新しく院長、看護部長に就任された方々のごあいさつを中心に組ませていただきました。皆様の熱い思いや抱負を語っていただき、厳しい医療情勢の中でも、とても頼もしく思いました。皆様の、益々のご発展をお祈りいたしております。

本誌でも紹介させていただきました、岡村健先生の著書「コーヒーを淹れる午後のひととき」、とても楽しく読ませていただきました。書中、海軍と陸軍の脚気論争を読んで、思い出したことがあります。ことの発端は、私が国立小倉医療センターの院長時代、3年前の夏に西日本肥満研究会を開催したときにさかのぼります。小倉医療センターの前身である小倉衛戍病院には、当時、陸軍の軍医として小倉に赴任していた森鷗外がたびたび訪れており、小倉医療センターは文豪ゆかりの病院として知られています。そこで、この研究会のために、鷗外の写真を入れたポスターを作成し、西日本の医療施設に送ったのです。しばらくして、福岡市内のC病院に勤務されているD先生から連絡があり、院内に掲示されているポスターをみたが、ぜひ1枚譲ってほしいというお申し出がありました。理由をおたずねすると、D先生が鷗外の曾孫である森千里先生（千葉大学医学部教授）の知り合いであり、このポスターを森先生に送ってあげたい、さぞかしお喜びになるだろう、と言われるのです。さらに、近々、森先生が小倉に講演にこられることも教えてくださいました。実は、小倉医療センターが鷗外ゆかりの病院として鷗外の写真を掲げていることは、森家の承

諾を得ているわけではありません。この際、ぜひ森先生にお会いして、お断りを申し上げねばと思い、小倉の「鷗外を偲ぶ会」が主催する講演会に出かけました。この日の講演のタイトルは「鷗外と脚気」という、まさに聞いてみたかったお話でした。前述しました陸軍と海軍の脚気論争で、鷗外が悪者扱いされていることがずっと気になっていたからです。森千里先生はこのことに触れ、身内が誤解されているのはちょっと残念だし、鷗外の名誉のためにも、ということで大変つましやかに、ユーモアを交えて、以下のようなお話をして下さいました。この論争があった時の軍医部における鷗外の立場はナンバー3であり、脚気細菌説を強調したのは上司の人たちであった。鷗外は海軍の高木兼寛が唱えた栄養不足説を認めていた時期もあった、しかし当時の状況として上司には逆らえなかった。鷗外は決して細菌説の先鋒ではなかった。この論争を世に知らしめたのは作家吉村昭氏の「白い航跡」という作品であるが、おそらく吉村氏は、高木兼寛の相方として、上司2名は知名度が低く、ここに文豪鷗外を配置するほうが、インパクトのあるストーリーになると考えられたのではないかと述べられました。

まさに、吉村氏の狙いは見事に当たり、素晴らしい作品として、多くの方に読まれています。森先生から、このお話を伺い、長年のわだかまりもとれ、安心しました。森鷗外の肖像権？ 森千里先生から「いかようにもお使いください」とのお墨付きをもらいました。C病院のD先生、どうもありがとうございました。

（岡嶋 泰一郎 記）

第151回 看護研修会のご案内

開催日 平成29年8月18日（金） 9：20～15：00

場所 ナースプラザ福岡 1F「研修ホール」
福岡市東区馬出 4 丁目10 - 1

参加料 会員 病院 1人につき 3,500円
会員外病院 1人につき 5,000円

参加申込締切日 平成29年8月4日（金）

講演Ⅰ 「ナースができるリンパマッサージ」
—浮腫へのアプローチ—
HANA NURSING THERAPY 代表 山口 晴美

講演Ⅱ 「ノーリフト（持ち上げない看護）によるケアの質向上」
—患者さんの安楽と職員の腰痛予防の両立—
一般社団法人ノーリフト 代表 保田 淳子

*お問合せは福岡県病院協会事務局（電話092-436-2312）までお願いいたします。
*ホームページを開設しましたので、インターネットからも参加申込みができます。
〈URL <http://www.f-kenbyou.jp>〉

ほすびたる

第 713 号

平成 29 年 6 月 20 日発行

発行 ◎ (公社)福岡県病院協会

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南 2 丁目 9 番 30 号
福岡県メディカルセンタービル 2F
TEL092-436-2312 / FAX092-436-2313
E-mail fukuoka-kenbyou@globe.ocn.ne.jp
URL <http://www.f-kenbyou.jp>

編集 ◎ (公社)福岡県病院協会

制作 ◎ (株)梓書院

〒812-0044 福岡市博多区千代 3 - 2 - 1
麻生ハウス 3F
TEL092-643-7075 / FAX092-643-7095
E-mail : mail@azusashoin.com

編集主幹…石橋 達朗

編集委員長…岡嶋泰一郎

編集副委員長…竹中 賢治

編集委員…平 祐二・上野 道雄

澄井 俊彦・増本 陽秀

壁村 哲平・平野 礼子